

キャラクター名
諏訪 礼羽(スワ ライハ)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	ブラム=ストーカー		年齢		17
オプション					
覚醒	死	衝動	恐怖	初期侵食率	35 %
出自	名家の生まれ	経験	約束	邂逅	貸し

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	2	1	1	1		5	行動値	11
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	11
精神	2	0	1			3	戦闘移動	16
社会	0	0	1			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	2		交渉		
回避	3		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
冬海 詩歌	P 慈愛	N 悔悟		
るう(路地裏の女の子)	P 庇護	N 脅威		
超血統	P	N		
<蠍火>	P 尊敬	N 劣等感		
<孤独の医師団>	P 尊敬	N 不安		
桜木 叶	P 尊敬	N 不信感		
夢水 シオリ	P 好奇心	N 隔意		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
赫き剣	3	3	マイナ	至近	自身	自動		
効果: [LV*2]以下のHPを消費し+[消費したHP]+2の武器を製作する								
渴きの主	3	4	Xジャー	至近	単体	対決		
効果: 白兵攻撃に組み合わせ、装甲無視と[LV*4]HPを回復								
滅びの遺伝子	2	6	オート	視界	単体	自動	P	
効果: 対象から1でもダメージを受けた時、[LV*10]のHPダメージ								
クイックダッシュ	1	4	セットアップ	至近	自身	自動		
効果: 即座に戦闘移動を行う								
コンセントレイト	3	2	Xジャー					
効果:								
日常の代行者	★	-	常時		自身	自動	-	
効果: 公共料金を振り込む								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一人暮らしをしながら高校に通うちょっと正義感の強い女子高生。AB型のRh-と珍しい血液型を持っている。そう大きくない島の生まれで、進学にあたって本土に渡って来た。少し引込み思案でどちらかと言えば物静かな性格なのだが、仮面をつけて戦う戦士や、変身して戦う少女のようなヒーロー的存在に小さな憧れを抱いている。その影響もあって、ささやかながら人助けには行動的。年配者が多く子どもの少ない島で育ってきたこともあり、年下の子に対して喋るときはちょっとヒーローを取り取りたくなる時がある。(普段は丁寧な喋り方をする) ちなみに島の文明は現代で見るとお世辞にも良いとは言えないので少し世間知らず。本土のその辺の土地でさえ目新しいものが多い。

幼い頃から仲の良かった冬海 詩歌(フコミ シイカ)という少女があり、礼羽にも懐いていて若者の少ない環境だったため、暇があるとよく一緒に遊んでいた。また礼羽もよく世話を焼いていた。詩歌もまた戦うヒーローをカッコいいと思っており、何かあるごとに助けてくれる礼羽のことをヒーローみたいだとよく言っていた。その詩歌はと言えば、礼羽が中学生の時に事故にあっており、その時輸血に大きな時間が掛かってしまったことが原因の一つになり、数年の入院生活を経て亡くなっている。彼女は同じAB型であったため礼羽は少しでもいいから自分の血をと懇願したのだが、Rh-である稀少さが災いしておりその血がこの場で役に立つことはなかった。肝心な時に何もしてやれなかった無力感と、それを吐露した時の「お姉ちゃんはいかっかいヒーローだよ」という入院中の詩歌の言葉がずっと重荷になっており、重圧から逃げるように本土の学校へと進学した。それでもその言葉を無碍にできるはずもなく、相変わらず人助けを時折しながら平凡な日常生活を送っていた。

いつか、あの子に胸を張れるヒーローとして生まれ変わる日をひそかに望みながら。